

茨城農業の将来ビジョン作成に向けた第1回有識者会議 議事概要

- 1 日時 令和5年3月23日（木）10：30～12：00
- 2 場所 県庁5階 庁議室
- 3 出席者 別添出席者名簿のとおり
- 4 委員からの主な意見

- ・大規模化したくてもできない地域もある。県内の地域性を考慮した政策を検討する必要がある。
- ・米については、世界的にみると需要が高まっており、輸出を視野に入れた政策も行うこととしてはどうか。一方、品種改良が進めば、生産面積が縮小しても所得を上げられる可能性もあるため、こうした視点も重要。
- ・肉用牛については、生産拡大に力を入れることに加え、消費等の出口対策や耕畜連携も併せて考える必要がある。
- ・法人の中でも、支援が必要なところとそうでないところもあるのではないかと。
- ・農地を有効活用するためには、農業版工業団地や企業を誘致したり、農商工連携の取組を入れる方法があり、これらによって地域を豊かにすることもできるため、こうした視点を入れるべき。
- ・農業の産業化を図るためには、生産に偏重したものではなく、消費や流通も考慮して、農業の構造を改革するような内容を検討すべき。
- ・農産物の輸出に取り組むに当たっては、世界の需要に対応できる量の確保、農薬使用基準、輸出に適する品種の選定等の課題があるので、それらをクリアする政策が必要。
- ・輸出においては、有機農産物も十分に需要がある。また、肥料・飼料の自給化などのコスト削減の取組も重要。
- ・農林業センサスの統計の取り方もころころ変わる。指標としてどのようなものがあるのか、数値の取り方を検討することも必要ではないかと。
- ・茨城県は、農業を営むには恵まれた土地であって、伸びる要素が多くあると感じている。この会議を通じて、茨城の農業を伸ばしていく方向性を考えていきたい。
- ・後継者に家の農業を継いでもらうためには、いかに儲けて魅力的な経営にしていけるかが重要と考える。